

近代オリンピックの変遷に関する研究

A study on transition of Olympic games

1K04A001
指導教員 主査 磯繁雄先生

秋月 良宏
副査 彼末一之先生

I はじめに

近代オリンピックは1896年に第1回が開催され、現在では110年を超す歴史あるスポーツの祭典である。その間に2度の世界大戦によるオリンピック開催の中止、東西冷戦などの影響によるオリンピックボイコットの歴史など近代オリンピックの移り変わりがあった。多くのアスリートがそのオリンピックという舞台を目指し日々努力しているが、近代オリンピックは純粋なアスリートだけが関わることの出来る舞台というわけではない。そこには複雑に政治や社会、国際情勢や時代背景、ビジネスなどの様々な思惑が存在しオリンピックというものを形成している。現実的にスポーツは政治などに利用されるべきではない、という考え方が多くあるが、それが理想論に終わってしまっているからこそ、近代オリンピックの歴史にも影を落としている。また、現在も環境問題やドーピングなどの様々な問題を抱えながら開催されている。今回私は、数々の問題に直面し現在でも多く問題を抱えながら開催されている近代オリンピックについて時代背景なども考えつつまとめとみようと思う。

II 本論

近代オリンピックの開催に至るまでには、クーベルタン男爵の尽力によるところが大きい。このクーベルタン男爵が掲げた「アマチュアリズム」をはじめ、現在のオリンピックとは規模も考え方も変化し続けている。現在、近代オリンピックでは「アマチュアリズム」がなくなってしまうとはいえないが、純粋な意味でのアマチュア選手はごく少数である。見ているものを楽しませ、またアスリート自身もより

良いパフォーマンスを発揮したいと考えている以上、プロのアスリートの参加は自然の流れだったのかもしれない。

オリンピックの本来の目的は青少年の健全な成長、世界平和、国際親善の場を提供することだった。この絶えず変化してきた近代オリンピックであるが、変化する要因となった事件や、時代背景が必ずあるはずである。ナチス政権の主導により開催されたオリンピックや、加速する商業路線を歩むことになったオリンピックは、その時代を如実にあらわしているできごとだと思う。近代オリンピックはそういった影響を受けやすいものであるともいえる。政治的なオリンピックは本来オリンピックの意図にはないものであるが、現在まで必ずといっていいほど政治とオリンピックは多少はあるが、つながっているものである。しかしその事を頑なに拒否し、排除することは不可能であり、不具合も生じてくる。政治と共存する近代オリンピックというものが成立しなければならないであろう。

また、現在でも根深く残っているドーピング問題は、オリンピックの信頼性、公平性が揺らぐ問題である。ドーピング問題の影響はそれだけにとどまらず、青少年への悪影響、アスリート自身の健康も悪化する。このドーピング問題の対策や、罰則、検査なども近代オリンピックが抱える問題の重要なポイントである。環境問題や都市開発の問題もオリンピックという世界最大のスポーツの祭典であるからこそ、他のスポーツイベントの見本となる対策を講じる必要がある。それらの歴史的事実や時代背景、また多く抱える問題を加えてまとめ、現在のオリンピックではどういった方向性で、

オリンピック運動が進められていくのかという事も大事な問題であり、近代オリンピックの変化となった要因や、諸問題もそれらを客観的な事実とともに、考察する。

Ⅲ まとめ

近代オリンピックの変遷や抱えている問題を、こ

こでは総合的にまとめると、オリンピックは時代と共に、改革されてきた。それは、単なるスポーツ大会から経済や文化までも動かす力を備えているものである。近代オリンピックは現在から未来に向かってどういった方向性で進むべきか、変化し続けてきた近代オリンピックにできることもある。